



善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

78

「駅弁の宝石箱や」



文月 斉 (ふみつき さい)  
埼玉県出身。  
人と街、自然と文化を題材に、  
みちくさばかりの旅を続ける  
エッセイスト。  
函館、埼玉、大阪を拠点に  
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？  
 新年度がスタートしたね。君もテレビや新聞で目にしてると思うけど、今年は北海道と命名されてから150年目となる年なんだ。すでに年明けから関連事業が各地で開催されていて、2月にはキタックオフイベントとしてアカデミー賞ならぬ「キタデミー賞」なんてイベントが開催されていたよ。本家のアカデミー賞に倣って北海道ゆかりの映画や歌、著名人に賞が送られるんだけど、主演男優賞の一人にヒゲマが選ばれたり、キタキツネや味噌ラーメン、オホーツク海の流氷といった北海道を語る上で欠かせないものたちが各賞に輝く粋なイベントだった。8月には記念式典も予定されていて、新年度に入ってアニバーサリー事業も益々本格化しそうだね。

もっとも、この北海道150周年の盛り上がりで影が薄くなっている感はあるけど、150周年以上に気になっているアニバーサリーがあるんだ。青函トンネル開業30周年がそれさ。150年に比べたら五分の一ほどの歴史だけど、リアル感のある年月だけあって、30年前の旅を始めたころの自分と照らし合わせながら当時のニュース映像を見ているよ。ちょうど瀬戸大橋も開通したあの年、北海道から四国、九州まで陸続きになる。一本列島の年ですなんて、どこかのアナウンサーが言っていたっけ。トンネルの開通で、東京から乗り換えることなく北海道に入れる寝台列車「北斗星」も誕生して、海の向こうの遠い日本だった北海道が一気に近くなった気がしたものだよ。実際にトンネルを通るまでには20年近くかかったけどね。

すぐに行ってみなかつたのか？ 実は若い頃は今よりも寒いのが苦手だね、旅といえど南の方にはばかり足が向いていたんだ。着の身着のままの貧乏旅行で、無人駅のベンチで夜を明かすなんてこともあったから、寒い北国はいつも憧れ止まりだった。旅の途中、行き会う旅仲間から北国の鉄道旅の話聞くことがあったけど、魅力にあふれる話ばかりだったなあ。開通当時の青函トンネルには「ゾーン539」なんて愛称もつけられていて、記念の通行証やオレンジカードを見せてもらった記憶があるよ。

え、グルメの話題は出なかつたのか？ ははは、そう慌てないで。鉄道の旅といったら駅弁の話は避けては通れないよ。いかめし、かにめし、ほたてめし。今みたいにスマホで気軽に写真を見せられる時代じゃないからね、大事にファイルされた弁当を包む掛け紙を手に、ご飯粒ひと粒にいたるまで詳細に話してくれたっけ。画像がない分、よけいに頭の中でイメージが膨らんで、掛け紙からお弁当の香りが漂ってくる錯覚さえ覚えたものさ。なかでも印象に残っているのが昭和11年に創業した駅弁みかどの「鯨みがき弁当」の話。国鉄時代の昭和41年から販売されている駅弁界のレジェンドの弁当で、掛け紐を外すとご飯の上に敷き詰められた身欠きにしんと数の子が、極上の香りとともに弁当のふたを押し上げてくるんだよ、だって。数の子なんて正月にしか食べられない贅沢品が、駅弁としていつでも気軽に食べられるという話は衝撃的だったね。会社は現在、北海道キヨスクに引き継がれてしまったけど、お弁当は今でも健在。先日も鯨みがき弁当を買ってローカル線に乗り込んだんだけど、昔の旅人の気分が味わえてタイムスリップでもしたような気分だったよ。

そうそう、食いしん坊の君にピッタリなお弁当もあったよ。「北の駅弁屋さん」といってね、鯨みがき弁当をはじめ、いか飯や、かにめし、つぶ貝弁当、うに弁当など、みかどの人気駅弁が勢揃いした、駅弁の宝石箱や、的なお弁当。これがまた…おっと、書くところがなくなっちゃったから自分の舌で確かめにおいで。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ  
イータックス 検索